

第10回 標準委員会 研究炉専門部会議事録

1. 日時 2003年9月1日(月) 14:00~16:15

2. 場所 日本原子力学会 会議室

3. 出席者(敬称略)

(出席委員) 中島(副部会長), 伊藤, 小林(捷), 小林(久), 西郷, 鈴木, 鶴田, 西村, 平山, 廣田, 松本, 宮坂
(12名)

(代理出席委員) 白川(早川代理) (1名)

(欠席委員) 中澤(部会長), 山内(2名)

(常時参加者) 坂本(1名)

(事務局) 太田, 阿久津

4. 配付資料

RTC10-1 第9回 標準委員会 研究炉専門部会議事録(案)

RTC10-2 標準委員会の活動概況

RTC10-3 分科会・タスクの活動状況

RTC10-4 「放射線遮蔽計算のための線量換算係数(案)」の決議投票結果について

RTC10-5 「同上」への喜多尾委員コメント

RTC10-6 「同上」の決議投票時コメント等の反映について

RTC10-7 放射線遮蔽計算のための線量換算係数(改定案)

RTC10-8 研究炉専門部会タスク活動報告

参考資料

RTC10-参考1 研究炉専門部会委員一覧

5. 議事内容

議事に先立ち, 事務局より, 代理委員を含め13名の委員が出席しており, 定足数(10名以上)を満足している旨の報告があった。また, 本日, 部会長が欠席のため規約に従い副部会長が部会長を代行した。

(1) 前回議事録の確認

前回議事録(RTC10-1)について承認された。

(2) 人事について

事務局より, 三田委員が6月末をもって, また早川委員が本日をもって, いずれも職務の都合により委員を退任との報告があった。

部会長代行より, 委員の退任に伴う対応について意見を求める旨の発言があった。

廣田委員より和泉 啓氏(日立)の, 伊藤委員より白川正広氏(富士電機)の推薦があった。両提案について, 全会一致で両氏の委員選任を行った。

(3) 標準委員会活動状況報告

事務局より, 規制要望等に関する標準委員会特別会合(8月1日)を中心とした報告を行った(RTC10-2)。

・文部科学省の人の出席は? → 出席していない。規制側の人は保安院のみである。

・今後の後は? → 役立つようであれば, 続けようとの考えであったが, 標準委員会の名前が付いたものとして実施するかは疑問。

(4) 分科会報告

中島副部会長, 平山委員より, RTC10-3に沿って分科会活動状況の概要報告を行った。審議については(5)

(6)で実施。

(5) 「放射線遮へい計算のための線量換算係数(案)」の部会決議投票結果とその対応

事務局より, 標記決議結果(RTC10-4; 既にEメールで委員通知済)の報告を行った。また, 併せて, 喜多尾委員(標準委員会)からもコメント(RTC10-5)を受けているとの報告があった。

坂本氏より, RTC10-6に沿って投票で受けたコメントの標準案への反映状況の説明を行った。尚, 喜多尾委員のコメントについても, 投票で受けたコメントと同様に扱って対応を行っている。以下のような審議が行われた。

・5頁対応案のところ, 「データの一部」との記述から, 全体はどうなのかの疑問を持たれる。

→ 本標準は良く使う一部のデータを整理したものである。

・タイトルの「遮へい効果の評価法」への変更と全体構成の変更の意見については, 現標準がICRP勧告に沿ったデータと計算手法(補間式)を提供するものであり, 「そもそも評価法はどうあるべきか」を論ずるものとは主旨が違う。この点については, 分科会では議論をしていない。

・遮へい計算法の標準化は将来も作成は困難と思われる。このコメントの主旨は実効線量をどう評価するかのようにも見える。現在の線量が分かり難いからこのような標準があれば良いと考えたのではないか。

・実務者に役立つような標準を目指すのか、入門的な標準を目指すのか？

→ 実務者に役立つものを目指すか、実際に係数を使っている、その中味が分からないことが多いので、解説で丁寧に説明している。

・使い方としては換算係数をハンドブック的に見るためのものなのか？

→ 本標準には、それほど多くのデータを細かく載せている訳ではない。ICRP勧告には沢山のデータが載せてあるが、どれを使えば良いかわからない。使う人が統一的な数値を使う必要があり、そのための簡易データ版とした。

・喜多尾委員のコメントは対象が広すぎて放射線審議会で議論するような内容のものである。観点も本標準とは異なる。部会対応としては、本標準が「ある前提（ICRP）に基づき現在使われているものを制定したもの」と言う分科会（主査）の主旨で通すことで良いと考える。

・もし委員会で現在の分科会の主旨と異なるより広く高いレベルの標準を望むならば、新たな分科会の立ち上げが必要になる。

以上から、指摘事項に対する対応を行った本標準案は妥当なものであり、次回の標準委員会に報告することを全会一致で決定した。尚、フォント、太字、インデント、付番などの様式に係る修正については、今後記載様式に従って修正を行っていくことが了解された。

(6) 研究炉専門部会タスクについて

中島タスク主査より、RTC10-8に沿ってタスクの活動状況及び新規標準案件の絞込み結果についての報告があり、以下のような審議が行われた。

- ・研究炉の存在意義、将来計画などの〔一般〕と分けした案件については、今後新たな炉を作る状況ではなく、当面のニーズがなく、また標準という形に合うものではないことから外れた。
- ・将来に不安を感じる。材料などの実証の場がなくなる。学生の意識、教育的な見地からも問題である。教育施設との位置付けで押すことが必要。
- ・学会の中の研究専門委員会のようなところで考えるべき課題、あるいは懇談会のような形ではないか？（事務局後記：特別委員会「大学の原子力工学研究教育設備等検討」が終了し、引き続き、同主旨の検討が「原子力教育・研究」として行われている）。

〔サイト解放基準〕

- ・「廃止措置の基本的考え方」を作る中で課題として出てきた事項。発電炉でも進んでいない（ニーズがそれ程大きくない）ので、研究炉が先行となる。ただし、発電炉の経験から実際に扱うか否かは十分検討する必要がある。
- ・クリアランスレベルについては、サイクル部会で扱っており、そちらをウォッチする必要があるが、出力の大きな発電炉でのデータが核種も異なる研究炉で使えるか疑問。これについては、原研とRANDECで扱うことになっており、検討が始まったところで、実施するにしてもその結果が明らかになる1年程度後にして欲しい。
- ・サイト解放基準は、発電炉で検討をやらなかった経緯があり、現状の「研究施設での管理区域解除」で措置していることに配慮する必要がある。
- ・「サイト解放基準」を「管理区域解除基準」として検討してはどうか。

なお、「サイト解放基準」案件は、これらの議論を含めてを整理したい。

〔研究炉の維持基準〕

- ・これについてはニーズがあるのか？ 各炉が長年の経験・実績から炉の特徴に応じてこれが最適というやり方を工夫しているのが実情で、標準ができたなら困るということにならないか？
- ・品質保証は重要。行政庁からもこれを研究炉に適用という動きのある中で、これらのやり方を文書化・基準化し、システムの管理できるようにしておいた方がよい。
- ・重要度分類について過去にまとめた経緯があるのでこれを参考にできる。
- ・合理性のないものでも必要なしとすることはなかなか認められない。学会での標準がこの助けになるのでは。
- ・炉型によって異なるようなものではなく、包括的な基準ができればよい。
 - ・アンケートを取って、ニーズのある項目に絞るようなことが必要。

〔放射線場の標準〕

・例えば照射場の例を挙げるようなハンドブック的なものになるのか？

→ 場として何をおさえておけば良いのか、そのおさえ方にはどのような方法があるか、運転状態が変わった時にどのようにおさえるか等場をキャラクタライズする方法。

〔放射線安全の確保基準〕

・現在の放射線遮蔽分科会で進めてもらう（一分科会で扱うか否かはペンディング）

タスク活動をより効果的に行うため、タスクの協力者として次の委員を例にアサインしてタスクとの連携を取りながら、今後個々の案件についてイメージ、内容、どんな成果、スケジュールをまとめて行くこととした。

サイト解放基準：宮坂、研究炉の維持基準：小林（捷）

6. 次回開催予定

第11回専門部会は、タスクの検討状況などを見ながら後日決定することとした。

